

56 明治7年11月9日 菊池長閑宛

第七号 十一月九日認む (長閑注記)

今朝「弁理大臣大久保利通清国談判ノ末彼政府ヨリ償金可差出  
結約ノ趣本日電報有之候此旨為心得相達候事十一月八日」ト之  
布告を見不思拍手雀躍仕候実に日本の国威名誉ト共に首高く人  
民タル者誰か感欣セサランヤ支那ノ虚弱聞しより甚しと云へし  
窃ニ承ル償金ノ高ハ五拾万テール乃チ六十乃至七十万円なりと  
如何なる訳にて償金を可出と申候やハ未タ確説ナシ台島ハ矢張  
支那の属地トスルカ或ハ化外の土とするか誠床敷存候何程支那  
ハ虚傲なれハ逆属地ニ非ストハ申間敷然レ共又金高入費ト比較  
候得ハ余り些少ならざるを得依て惑なきニ不能償金高ハ少な  
き故却て私ニ成候て不平を懷者無ニハ非れ共実を云ハ何程にて  
も償金を取候勝出事ニ成たる故皆々可悦事ニ候此上ハ兵隊を穩  
ニ統御するハ第一の急務なり何故なれハ彼等格別に義勇兵今盛

氣立居中々容易に和を以テ満足致間敷且先達而も申上候方今ノ  
政府に不服の者余程有之候得ハ或ハ内乱なしとも不被申兼而申  
上置候通外患なけれハ内憂ハ免難かるへし併し此ハ却て国の為  
メニ可宜欵兎角今ノ廟堂ニ立入人望を失テ日久し依前参議等ニ  
ても再政府ニ返リ候方可然と存候此改革ハ兵ヲ以テ成ラン方或  
ハ穩に行候ハ、実ニ幸福と云へし併此ハ只愚存ニて其遅速正否  
ハ勿論御推察を奉願上候且決て御他言被下間敷候猶御不審之廉  
も御座候ハ、及丈申上へく候間無御遠慮被仰下度候先ハ吉左右  
御報告迄取急ぎ申上候以上

九日

御尊父様閣下

武夫拜

(長閑注記)

〔朱書第七号十一月九日附同十六日達し返書此方九号ヲ以同〕

〔三十日認〕